

古紙収集量減少の分析について

過去 5 年間の燃やすごみと古紙収集分の推移は、下記のとおり。燃やすごみ、市の古紙回収（収集・持込み）量ともに、減少傾向にある。

その反面、平成 25 年度に市内のスーパー等を対象に実施した「資源物の店頭回収の実態調査」の結果、古紙回収ステーションでの古紙回収量が増加していた。

調査以降、市内に 2 カ所古紙回収ステーションが新設（笠原町と光ヶ丘）されており、24 時間搬出可能な古紙回収ステーションの利用者が増えてきていると推測される。

また、新聞販売店による回収（各販売店と個人との契約（依頼）により、指定の回収袋に入れた新聞を玄関先に出すと販売店が回収してくれる）が、最近増えてきている（両藤舎へ再確認 10/30）。ステーション等まで運ばなくても、玄関先で回収してくれる便利な方法を選択される人が増えてきていると推測される。

このような状況から、循環型社会システム構想の指標である「資源化率」について整理する必要がある。

【燃やすごみ及び古紙収集量等の推移】

項目/年度	21	22	23	24	25
燃やすごみ(収集分)	20,449	19,968	20,477	19,996	19,497
古紙回収量	3,000	2,995	2,974	2,599	2,345
古紙(市持込分)	2,727	2,580	2,647	2,271	1,919
古紙(市収集分)	273	415	327	328	426
資源集団回収量	3,396	3,380	3,239	3,038	2,786
古紙回収ステーション	-	-	115	204	未確認

* 新聞販売店による回収量については、把握していないが、最近増加傾向にある。

